

エンジニアパーク

Engineer Ring Park

私は、北海道の泥炭地で産湯を使い、19歳から東京で30年間近くコンサルタンツ一筋にやってきました。29歳の時、初めてJICAでマレーシア国の開発調査(農業開発)を経験したのをきっかけに20年以上海外業務を携わってきました。東南アジア、アフリカ、中米など20カ国以上に行きました。私は食べ物に対するこだわりは無く「現地で皆が食べているものは食べてみる、熱が通っているものは安全」であり、どこに行っても食べ物には困りませんでした。日本食が食べたくなると麺類(スパゲッティ)があれば大体満足してしまうなど鈍感力が幸いました。

趣味はゴルフです。外国政府との契約業務では、行った先々でのゴルフが楽しみです。在外公館の方や商社のコンペにも参加させてもらいました。セネガル、マラウイ、ザンビア、ジンバブエ、南アフリカ、バングラデシュ、タイ、インドネシア、中国などで楽しみました。忘れられないのはジンバブエ国の「ロイヤルハラレC.C.」で国花ジャカラダの紫の花びらが一面に敷き詰められた紫色のフェアウェイでゴルフしたことです。あの美しい光景は素晴らしかったです。

平成14年からは北海道支社勤務となりました。その後は子供たちの結婚式で海外に行った程度で、すっかり国内仕様になってしまいました。

国内事業では技術士資格が必要であり、それから受験勉強をはじめました。海外技術協力で論文を一つ作成できたのも幸いでした。

これからも仕事に興味にと健康で楽しく過ごそうと考えております。今後も宜しくお願い致します。

住友 俊夫 (すみとも としお)

● 農業部門(農業土木)

勤務先

NTC コンサルタンツ株式会社
北海道支社



→次号は、門田浩志さん(建設部門)

私は、札幌で高校生までを過ごしましたが、自転車や原付で、山奥のダムなどに入り釣りをして作工物を見ているうちに、将来は土木構造物に関わる仕事をするようになり始めました。室蘭の大学に進学し就活時に五洋建設(橋梁設計)の求人があり、応募したのが今の会社への入社きっかけでした。本社勤務もありましたが、ほぼ30年間室蘭製作所で鋼橋の製作工事に関わっています。

1988年入社当時は技術士という資格自体、正直聞いたことがありませんでした。あるとき本社で技術士の先輩から、「これからは土木技術者には技術士が絶対必要なんだ」と熱く語られ、取得を考えましたが、受験のハードルが高くあきらめていました。そんな中、試験方法の改訂があり、そこを狙って1次試験から受験し、2005年の1次試験から2007年の2次試験まで諸先輩のバックアップにも助けられ、奇跡的に全て1回で合格することが出来ました。2次試験では40才を過ぎており、知識と経験をもとに社会に対する鬱憤などを文章とコトバにして発したことと優しい面接官にも当たり偶然が重なったことで1発合格に結びついたのではと勝手に思っています。

登録後は橋梁製作工事の主任技術者として、工事に問題が生じた際に技術的なバックグラウンドを基に発注者と折衝し、良い方向へ着地点を決めるといったことを行って参りました。発注者との信頼関係は技術士という資格があるからこそなのかなと思っています。

現在は、社内の受験者の模擬面談を行うなど、後輩の育成に努めています。今後も自己研鑽を忘れずに、社会に貢献出来る技術者でありたいと思います。

浅井 弘二 (あさい こうじ)

● 建設部門
(鋼構造及びコンクリート)

勤務先

五洋建設株式会社
札幌支店室蘭製作所



→次号は、河原俊哉さん(建設部門)